

補助金申請の相談を契機に 商工会に入会した消防服製造企業

課題

**繁忙期が3月に集中。
安定生産ができない**

雲仙普賢岳火砕流にはじまり、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災災害、新潟県中越地震、東日本大震災、御嶽山噴火、西日本豪雨と、平成は多くの甚大な災害に見舞われ、防災への関心が高まった時代でもあった。災害や事故の最前線で消火、救助活動を行う消防士にも脚光が当たった。消防士の命を守るためのさまざまな装備のなかでも、もっとも大切なのが消防服だ。活動しやすく、なおかつ猛火から消防士を守るという機能を高次元で融合させなければならない。

そんな消防服の国内シェア 47%を占める消防用品専門メーカー・株式会社赤尾の縫製部門を担うグループ会社として平成8年に設立されたのが、ダイセン縫製有限会社だ。赤尾グループ国内唯一の防火服縫製工場、赤尾の防火服の縫製はすべて同社が請け負っており、20年の業績を誇る。赤尾を通じて納入する取引先は東京消防庁、大阪市消防局、名古屋市消防局など全国市町村消防本部で、各消防隊員に対応した極小ロット、多品種生産でニーズに応え、年間約7000着の防火服を製作している。

生産ラインには一貫システムを導入し、CADによる型紙製作、最新の縫製機械によって工程の半自動化を実現。赤尾の市場占有力和企業ネットワークを活用した、世界水準の素材生地、人間工学デザインに裏づけられた高い製品加工技術が、同社の強みだ。

最大の課題は、繁忙期が年度末の3月に集中していることで、安定した生産ができないことにある。加えてベテラン従業員が退職して人材が不足していること、原材料費の高騰による原価の高騰などの課題を抱えていた。

江府町商工会には入会していなかったが、定期的に巡回訪問を行っていたところ、平成28年12月にものづくり補助金、経営力向上計画の申請の相談がもちかけられた。

支援

**ものづくり補助金の
申請を支援**

商工会ではただちにヒアリングを開始。SWOT分析や方向性提案シートなどの支援ツールを活用して、ものづくり補助金の申請および経営力向上計画の申請をサポートすることになった。



CADシステムによる裁断工程

さまざまな提案を行っていくなかで信頼を勝ち取り、やがて同社は商工会に加入。そして、目指す計画である「ハイビジュアリティィー・セーフティーウェア（高視認性安全服）生産供給プロジェクト計画」は無事、採択された。

計画を通じて同社の課題や強みを明らかにすることにより、「客観的に自社の経営資源を分析するよい機会になった」「従業員のモチベーションが上がった」との高評価を得た。

支援の経過

期間	支援内容
H28年12月	ものづくり補助金の申請支援
H29年1月	経営力向上計画の申請支援
3月	ものづくり補助金採択
4月～	各種フォローアップ

会社概要

会社名：ダイセン縫製有限会社
住所：鳥取県日野郡江府町武庫500-1
電話番号：0859-75-3511
代表者名：代表取締役 赤尾隆
創業年月：平成8年
年間売上高：2億5000万円（平成29年）
従業員数：49名
商工会名・担当者名：江府町商工会・森山晴夫